

短期大学経営に対する図書館の貢献—図書館員と経営者による認識の違いを探る—

山下樹子 (慶應義塾大学大学院) motoko-y@slis.keio.ac.jp

I. 研究の背景と目的

短期大学の経営が厳しさを増す中、短期大学の使命・目標の達成のために図書館が果たすべき役割は、短期大学設置基準¹⁾で図書館の機能とされる「教育・研究支援」に限定されるのだろうか。図書館は学校の広告塔的な役割、入学者増に貢献する役割なども担える可能性があると考えられる。

本研究では、短期大学の図書館員と経営者の意識調査を実施し、図書館がどのような役割を担えば短期大学の経営に寄与・貢献したと判断されるのか、という点について認識の違いを明らかにしたい。

II. 研究方法

A. 調査対象と調査方法

短期大学図書館（独立館）をもつ日本国内全ての短期大学の図書館員と経営者を調査対象とし、質問紙調査を実施した。2008年度も学生募集を実施している点を条件とした結果、調査対象となる短期大学数は国立0大学、公立21大学（23図書館）、私立197大学（198図書館）、合計218大学（221図書館）となった。図書館員の調査対象は専任職員1名とし、経営者側の調査対象は学長と短期大学事務部長の2名とした。

調査は一次調査として図書館員、二次調査として経営者を対象とし、質問紙の送付を2回に分けて行った。調査期間は一次調査が平成20年6月7日調査票発送、平成20年6月27日回答締め切り、二次調査が平成20年7月12日調査票発送、平成20年8月1日回答締め切りとした。回収結果は第1表に記した。

本調査における「経営者」選択の参考とするため、図書館の業務を評価し、予算を決定する際の影響力はどの役職者にあるかという点についても調査を実施した。二次

調査（経営者対象）の予備調査にあたる役割を果たしている設問であるため一次調査のみで実施した。（第2表）

第1表 調査票回収結果

	調査対象	対象数	回収数	回収率	有効回答数
一次調査	図書館員	221	154	69.70%	146
二次調査	学長	218	111	50.90%	110
	事務部長	218	127	58.30%	124

第2表 図書館の業務評価・予算決定におけるキーパーソンの調査結果

選択肢	学長	事務部長	理事長	図書館長	その他
回答数	66	65	55	34	13

回答者＝短大図書館員139人

B. 調査票の設計

本調査の調査項目は以下の3点である。

- ① 学生への学習支援や情報提供を強化したときの成果について（問2）
- ② 学外へ向けてサービスを提供したときの成果について（問3）
- ③ その他、短期大学内で担った役割やその成果について（問4）

各問につき図書館の成果を7つの質問項目として提示し、短期大学経営への貢献度を回答してもらった。回答方式は四者択一の選択式とし、選択肢はA「非常に貢献している」、B「まあまあ貢献している」、C「あまり貢献していない」、D「貢献したとはいえない」とした。

III. 調査結果

A. 調査結果分析の方法

質問紙調査の回答集計結果については、第3表に掲げた。学長と事務部長の回答は合計し経営者の集計値としている。

結果の分析は、四者択一の回答につき選

択肢それぞれの割合を算出する「選択割合」、回答を 1～4 点に点数化し算出する各質問項目の「平均値」、各問における 7 つの質問項目を平均値により順位づけした「項目順位」という 3 点において行った。

更に、カイ 2 乗検定による独立性の検定と、順位相関係数による検定を行った。

B. 調査結果

1. 学生への学習支援や情報提供を強化したときの成果について

【選択割合】問 2-4 “学生の欠席数が減少する”は、「貢献したとはいえない」の選択割合が、図書館員、経営者ともに最も高い結果を示している。成績上昇や資格取得と

第 3 表 図書館の貢献についての調査結果 (問 2~4)

質問項目	回答者属性	非常に貢献している		まあまあ貢献している		あまり貢献していない		貢献したとはいえない		n
		回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	
問2-1 留年する学生が減少する	図書館員	19	13.7%	65	46.8%	33	23.7%	22	15.8%	139
	経営者	28	12.2%	107	46.7%	71	31.0%	23	10.0%	229
問2-2 単位を落とす学生が減少する	図書館員	28	20.0%	80	57.1%	19	13.6%	13	9.3%	140
	経営者	42	18.3%	122	53.0%	54	23.5%	12	5.2%	230
問2-3 学生の平均成績が良くなる	図書館員	37	25.9%	85	59.4%	15	10.5%	6	4.2%	143
	経営者	63	27.4%	139	60.4%	23	10.0%	5	2.2%	230
問2-4 学生の欠席数が減少する	図書館員	9	6.4%	46	32.9%	50	35.7%	35	25.0%	140
	経営者	20	8.7%	82	35.8%	101	44.1%	26	11.4%	229
問2-5 学生の就職率が上昇する	図書館員	24	16.9%	66	46.5%	38	26.8%	14	9.9%	142
	経営者	42	18.3%	104	45.4%	71	31.0%	12	5.2%	229
問2-6 学生の進学率が上昇する	図書館員	29	20.1%	74	51.4%	26	18.1%	15	10.4%	144
	経営者	45	19.7%	118	51.5%	57	24.9%	9	3.9%	229
問2-7 学生の資格取得率が上昇する	図書館員	49	34.3%	73	51.0%	14	9.8%	7	4.9%	143
	経営者	60	26.1%	128	55.7%	36	15.7%	6	2.6%	230
問3-1 短期大学の知名度が高くなる	図書館員	70	48.3%	63	43.4%	9	6.2%	3	2.1%	145
	経営者	104	44.6%	106	45.5%	20	8.6%	3	1.3%	233
問3-2 地域に開かれた短期大学という印象を持たれる	図書館員	79	54.5%	60	41.4%	6	4.1%	0	0.0%	145
	経営者	138	59.2%	87	37.3%	6	2.6%	2	0.9%	233
問3-3 図書館の良い短期大学という印象を持たれる	図書館員	84	59.2%	48	33.8%	8	5.6%	2	1.4%	142
	経営者	94	40.5%	117	50.4%	17	7.3%	4	1.7%	232
問3-4 地元企業や市民、卒業生からの寄付金が増加する	図書館員	39	27.5%	52	36.6%	29	20.4%	22	15.5%	142
	経営者	44	19.1%	75	32.6%	94	40.9%	17	7.4%	230
問3-5 図書館が良いから採用に応募したという教員が増加する	図書館員	52	36.9%	59	41.8%	16	11.3%	14	9.9%	141
	経営者	23	10.0%	76	32.9%	101	43.7%	31	13.4%	231
問3-6 図書館が良いからこの短大を受験したという学生が増加する	図書館員	86	60.1%	39	27.3%	14	9.8%	4	2.8%	143
	経営者	77	33.2%	86	37.1%	57	24.6%	12	5.2%	232
問3-7 オープンキャンパスの参加者が増加する	図書館員	34	23.9%	62	43.7%	32	22.5%	14	9.9%	142
	経営者	45	19.4%	105	45.3%	67	28.9%	15	6.5%	232
問4-1 教員への研究支援を強化し、研究成果の発表が増加する	図書館員	79	56.0%	55	39.0%	6	4.3%	1	0.7%	141
	経営者	116	50.2%	101	43.7%	12	5.2%	2	0.9%	231
問4-2 第三者評価において図書館が高い評価を受ける	図書館員	84	58.3%	52	36.1%	7	4.9%	1	0.7%	144
	経営者	135	57.7%	88	37.6%	10	4.3%	1	0.4%	234
問4-3 教員・学生が図書館サービスをよく利用するようになる	図書館員	108	75.0%	32	22.2%	4	2.8%	0	0.0%	144
	経営者	141	60.8%	86	37.1%	5	2.2%	0	0.0%	232
問4-4 図書館がイベントを企画・実施し、寄付金を集める	図書館員	24	17.5%	58	42.3%	31	22.6%	24	17.5%	137
	経営者	32	13.8%	86	37.1%	94	40.5%	20	8.6%	232
問4-5 図書館が障害者雇用の受け入れ先となる	図書館員	4	2.9%	64	45.7%	43	30.7%	29	20.7%	140
	経営者	16	6.9%	87	37.7%	106	45.9%	22	9.5%	231
問4-6 図書館員が他の事務部門の業務も兼務する	図書館員	3	2.2%	23	16.5%	57	41.0%	56	40.3%	139
	経営者	13	5.6%	80	34.5%	99	42.7%	40	17.2%	232
問4-7 図書館サービスの質は最低限に抑え、経費を削減する	図書館員	0	0.0%	23	16.3%	46	32.6%	72	51.1%	141
	経営者	3	1.3%	50	21.7%	113	49.1%	64	27.8%	230

いった学習成果との関連が強い項目において「非常に貢献している」の選択割合が高くなっている。(第3表)

カイ2乗検定の結果,問2-4が棄却され,貢献度と回答者属性の関連が統計的に認められた。

【平均値】平均値の差がプラスとなり,図書館員が重要視していると思われる質問項目が2,差がマイナスとなり,経営者が重要視していると思われる質問項目が5となったが,7項目中6項目において平均値の差は0.1以下であり,ほとんど差は見られない。(第4表)

【項目順位】図書館員と経営者ともに,上位の項目は,平均成績の上昇(問2-3),資格取得率の上昇(問2-7)であり,最も評価されない項目は,欠席数の減少(問2-4)である。図書館の機能として認識されているものと,学生の成果との因果関係の明確さが,順位に影響していると考えられる。(第4表)

第4表 問2の平均値と順位(学生支援)

	質問項目	図書館員- 経営者	図書館員		経営者	
			順位	平均	順位	平均
問2-1	留年する学生が減少する	-0.04	6	2.58	6	2.62
問2-2	単位を落とす学生が減少する	0.03	3	2.88	4	2.85
問2-3	学生の平均成績が良くなる	-0.06	2	3.07	1	3.13
問2-4	学生の欠席数が減少する	-0.22	7	2.21	7	2.43
問2-5	学生の就職率が上昇する	-0.07	5	2.70	5	2.77
問2-6	学生の進学率が上昇する	-0.07	4	2.81	3	2.88
問2-7	学生の資格取得率が上昇する	0.09	1	3.15	2	3.06

2. 学外へ向けてサービスを提供したときの成果について

【選択割合】「非常に貢献している」の選択割合においては,6項目で図書館員が経営者を上回り,経営者が図書館員を上回ったのは,問3-2“地域に開かれた短期大学という印象を持たれる”という1項目のみである。この項目は,経営者の「非常に貢献

している」の選択割合が50%を超えた唯一の項目でもあり,他の6項目との選択割合の比較においても10%以上の差があり,経営者による支持が大きい項目と考えられる。(第3表)

カイ2乗検定の結果,問3-3,3-4,3-5,3-6の4項目が棄却され,貢献度と回答者属性の関連が統計的に認められた。

【平均値】-0.06というわずかな差ではあるが,平均値の差がマイナスとなり,経営者が重要視していると思われる質問項目は,問3-2“地域に開かれた短期大学という印象を持たれる”1項目のみである。(第5表)

【項目順位】図書館員と経営者の順位は7項目全て異なる結果となった。図書館員の順位が経営者の順位を上回った項目は,質問文の中に「図書館の良さ」が含まれている3項目(問3-3,3-5,3-6)である。経営者の結果からは,短大のイメージアップの成果である3項目(問3-1,3-2,3-3)の順位が高いという点が指摘できる。(第5表)

第5表 問3の平均値と順位(学外サービス)

	質問項目	図書館員- 経営者	図書館員		経営者	
			順位	平均	順位	平均
問3-1	短期大学の知名度が高くなる	0.05	4	3.38	2	3.33
問3-2	地域に開かれた短期大学という印象を持たれる	-0.06	2	3.50	1	3.56
問3-3	図書館の良い短期大学という印象を持たれる	0.21	1	3.51	3	3.30
問3-4	地元企業や市民,卒業生からの寄付金が増加する	0.12	7	2.76	6	2.64
問3-5	図書館が良いから採用に応募したという教員が増加する	0.67	5	3.06	7	2.39
問3-6	図書館が良いからこの短大を受験したという学生が増加する	0.47	3	3.45	4	2.98
問3-7	オープンキャンパスの参加者が増加する	0.04	6	2.82	5	2.78

3. 短期大学内で担った役割やその成果について

【選択割合】「非常に貢献している」と「まあまあ貢献している」の選択割合の合計が図書館員,経営者ともに90%以上と高い項

目が3項目（問4-1, 4-2, 4-3）、50%以下と低い項目が3項目（問4-5, 4-6, 4-7）となった。低い3項目においては、「貢献したとはいえない」という選択割合が高い値を示している。（第3表）

カイ2乗検定の結果、問4-4, 4-5, 4-6, 4-7の4項目が棄却され、貢献度と回答者属性の関連が統計的に認められた。

【平均値】平均値の差がプラスとなり、図書館員が重要視していると思われる質問項目が3、差がマイナスとなり、経営者が重要視していると思われる質問項目が4となった。（第6表）

【項目順位】順位は、図書館員、経営者ともに1位から7位まで同一である。短期大学の評価に関わる成果（問4-1～4-3）は順位が高く、短期大学経営における経費削減につながる成果（問4-4～4-7）は順位が低いという傾向がみられる。（第6表）

第6表 問4の平均値と順位
(その他の役割や成果)

	質問項目	図書館員- 経営者	図書館員		経営者	
			順位	平均	順位	平均
問4-1	教員への研究支援を強化し、研究成果の発表が増加する	0.06	3	3.50	3	3.44
問4-2	第三者評価において図書館が高い評価を受ける	-0.01	2	3.52	2	3.53
問4-3	教員・学生が図書館サービスをよく利用するようになる	0.13	1	3.72	1	3.59
問4-4	図書館がイベントを企画・実施し、寄付金を集める	0.04	4	2.60	4	2.56
問4-5	図書館が障害者雇用の受け入れ先となる	-0.11	5	2.31	5	2.42
問4-6	図書館員が他の事務部門の業務も兼務する	-0.47	6	1.81	6	2.28
問4-7	図書館サービスの質は最低限に抑え、経費を削減する	-0.31	7	1.65	7	1.96

IV. 結論

図書館員と経営者による回答に相関はないという帰無仮説の下で、順位相関係数による検定を行った結果、仮説が棄却されず図書館員と経営者の認識の違いが認められたのが、問3である（第7表）。

第7表 図書館員と経営者の回答における相関の検定
(スピアマンの順位相関係数による検定)

	順位相関係数
問2	0.929
問3	*0.714
問4	1.000

*は有意を示す（棄却域 0.754 以上）

認識の違いが見られなかった問2、問4は、図書館が学内においてサービスを提供し役割を果たした結果の貢献を示している。これに対して問3は、図書館が学外へ向けてサービスを提供した結果、学外において効果をもたらし、短期大学の評価が高まるという貢献のあり方を示している。ここに図書館員と経営者の認識の違いが表れたということは、短期大学を客観的に評価する意識が異なると言えるのではないだろうか。

図書館員と経営者の認識の違いは、何が短期大学経営に対する貢献となるのかという判断を下すために必要な視点である、外部から自分の短期大学を評価するという意識に起因すると考えられる。「学外へ向けてサービスを提供する」ということも含め、短期大学内から学外に目を向けるという意識は、図書館員と経営者の両方にあると思われる。しかし視点を逆にして、学外から自分の短期大学を見る、短期大学を客観的に評価するという意識を持つ機会は、経営者と比較して図書館員のほうが少なかったということが表れているのではないだろうか。

【注・引用文献】

- 1 文部科学省. “短期大学設置基準”. http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ninka/hourei.htm, [2010/09/03]